

NEWS ラインナップ

- 西武新宿線踏切渋滞解消促進期成同盟の活動を報告します
- 【特別企画】期成同盟代表と中野区の座談会
～西武新宿線連続立体交差事業と沿線まちづくりを語る～
- 西武新宿線沿線まちづくり整備方針〔野方駅周辺地区編〕を策定しました！
- 西武新宿線連続立体交差事業及び沿線まちづくりQ&A

西武新宿線踏切渋滞解消促進期成同盟の活動を報告します

西武新宿線踏切渋滞解消促進期成同盟は、2012年以降、毎年決起大会を開催してきましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年度に引き続き今年度も開催を取りやめました。代替措置として、全ての加盟団体と西武新宿線沿線の町会・自治会から賛同を得た決議文を理事会で採択しました。

踏切渋滞などを解消するために、次の3点について記した決議文をもとに、国・東京都・西武鉄道株式会社に要望活動を行いました。

- 1 中井駅～野方駅間の連続立体交差事業の着実な推進
- 2 野方駅～井荻駅付近の連続立体交差化計画の早期実現
- 3 連続立体交差事業及び沿線まちづくり事業の安定した財源の確保

要望活動は、訪問形式で行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、要望書と決議文を書面で送付する方法で実施しました。

西武新宿線連続立体交差化実現による
踏切渋滞解消について

開かずの踏切が多く含まれる中野区内の西武新宿線においては、踏切における慢性的な交通渋滞が深刻な問題となり、平成16年1月に中野区民、中野区議会および中野区の三者による西武新宿線踏切渋滞解消促進期成同盟（以下「期成同盟」といいます。）を結成し、踏切の渋滞解消に向けて活動を行っています。

中野区内の西武新宿線では、既に事業化している中井駅～野方駅間の工事が日ごとに進捗しています。今後とも、早期事業完了に向けて、工事を進めていくことが重要となります。また、地下化により新たな土地利用が可能となる鉄道上部空間については、駅周辺や沿線まちづくりとの整合を図り、地元要望や多様なニーズを踏まえて検討していくことが重要となります。

野方駅～井荻駅付近の連続立体交差化計画について、東京都は国から着工準備採択を受け、事業化に向けた検討が進められています。区では、各駅周辺地区で「まちづくり整備方針」の策定を進めており、地域ではまちづくりの検討も進んでいることから、計画の早期事業化への期待がより一層高まっています。

期成同盟では、中井駅～野方駅間の連続立体交差事業の着実な推進を図ること、着工準備採択を受けている野方駅～井荻駅付近の連続立体交差化計画の早期事業化を図ることを望んでおり、令和3年10月22日の期成同盟理事会において、全ての加盟団体及び沿線町会・自治会の賛同のもと、別添のとおり決議しました。

国土交通省におかれましては、下記の事項について特段のご配慮をいただきますよう、お願い申し上げます。

記

- 1 西武新宿線（中井駅～野方駅間）の連続立体交差事業の着実な推進を図ること。
- 2 西武新宿線（野方駅～井荻駅付近）の連続立体交差化計画の早期事業化を図ること。
- 3 連続立体交差事業及び沿線まちづくり事業に関し、将来に亘り、安定した財源を確保し、事業に必要な国費を確保すること。

以上

要望書（国土交通省宛）



西武新宿線踏切渋滞解消促進期成同盟ってどんな団体なの？

2004年1月に中野区民、中野区議会、中野区が一体となって、西武新宿線の踏切渋滞などを解消するために結成された団体です。期成同盟には、町会連合会や商店街連合会、小中学校PTA、中野区内を通るバスやタクシー会社など20団体が加盟しており、決起大会などの活動により、踏切解消に向けた想いをひとつにし、関係各所に要望等を行っています。

代表者（会長・副会長）紹介

期成同盟会長

大野 道高 氏

（中野区町会連合会副会長他）

期成同盟副会長

高橋 宏治 氏

（中野区商店会連合会会長他）



NEXT PAGE



中野区長
酒井 直人

突然の会長就任

大野 初代会長が亡くなられて、後任は先輩が務めると思っていました。「次は野方以西だから、鷺宮の大野さんがやらないと！」と言われまして。それで引き受けることになったんです。最初は、どう引っ張っていけばいいのか戸惑いもありましたが、高橋副会長や周りの皆さんに助けていただき、今日までやってることができました。

期成同盟発足の経緯

高橋 1997年に中野通りのアンダーパス化の話が出たとき、商店街が衰退してしまうのではないかと、地域から不安の声があがりました。しかし、踏切渋滞は問題視されていたので、なんとかしたいという想いがありました。踏切解消に向けた働きかけは、町会や商店会などが一緒になって活動することが重要であるため、町会連合会と商店街連合会が中心となって、2004年に西武新宿線踏切渋滞解消促進期成同盟を結成しました。そして、踏切解消の想いをひとつにした第一回決起大会を2008年に開催しました。

①期成同盟の始まり

豊川 1987年頃に西武新宿線の旅客数が増えて電車の本数が増え、踏切の遮断時間が長くなることによる渋滞が問題になっていました。そこで、地下に急行線を通し、地上の本数を減らすことで、その問題を解消しようとしたのですが、平成に入り旅客数が減少傾向になったことから、1995年に急行線の地下化は無期限延期になりました。そこで、中野通りアンダーパス化の検討が行われたのです。

連立事業・基盤整備の状況と地域の反応

豊川 西武新宿線連続立体交差事業の状況ですが、2013年に中井駅～野方駅間の事業が認可されました。2020年に事業期間が6年延伸されましたが、工事は着実に進んでいると西武鉄道から伺っています。一方、野方以西は早期事業着手に向けて調整を進めています。また、事業中区間の各駅では、駅前広場などの整備を進めています。

②事業の進捗状況と地域の現状



中野区 まちづくり推進部長
豊川 士朗

高橋 事業延伸は、とても残念に思っています。高齢の町会長の中には、「生きている間に見られないかも．．．」と言う人もいます。だから、なんとか早く完了させて欲しいです。また、地域の皆さんは、工事がどこまで進んでいるのかを気にしているので、見学会などをやってもらいたいと思っています。

酒井 私もこの前現場を見ましたが、地下だと状況がわかりづらいですね。

大野 見学が無理なのであれば、ビデオを見せてもらうのもいいですね。

酒井 今の現場は、見学するにはまだ危険な状況なので、ビデオで見てもらう方が良いでしょう。

豊川 工事の進捗状況等については、地域の皆さんにしっかりと周知するよう、西武鉄道に要望します。また、見学については、大勢では難しい状況ですから、工事のビデオなどを見せていただくよう、西武鉄道にお願いしてみます。

酒井 踏切渋滞解消という問題に対して、長い年月をかけて取り組んでいただいていること、西武線沿線で生活している人たちの強い想いがこの活動を支えていることを強く感じました。これまでのご苦労に感謝申し上げます。皆様のご苦労は、しっかりと発信しなくてはならないと思いますし、一日も早く連続立体交差化を実現するために、中野区としてもやっていかなくてはいけないと思います。



【特別企画】 期成同盟代表と中野区の座談会 連続立体交差事業と 沿線まちづくりを語る

2022年2月7日
中野区役所
にて開催!!

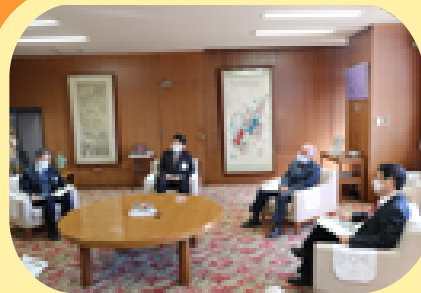
踏切の現状

大野 踏切の渋滞はすごいです。私は踏切の北側に住んでいますが、中杉通りは、新青梅街道まで渋滞が続くこともあります。事故もあったのだと思いますが、踏切で二時間半待たされたこともありました。

酒井 二時間半ですか。尋常じゃないですね。

大野 環七通りまで回って行った方が早いなんてこともありますね。

酒井 私も踏切が開かなくて、一時間くらい待たされたことがあります。



今後の期成同盟による活動について

高橋 コロナの状況が改善されたら、期成同盟の決起大会は絶対にやった方がいいと思います。決起大会は、町会や商店会だけでなく、バスやタクシーなどの公共交通を担う会社や様々な立場の人が“力を一つにして活動する重要性”を伝えることができるんです。とても大切なことだと思います。

大野 私も、絶対やった方がいいと思います。リモートで色々な会議をやっていますが、熱が伝わらないんですよね。人と人が顔をあわせて直接話す方が、絶対良いと思います。

酒井 “踏切渋滞を解消しなければならない”という想いを共有する場は必要だと思います。コロナが明けたらみんなで集まって、二年間できなかった分、より一層想いを強く共有して、力強く進める会にしたいと思います。

まちの将来について願うこと

高橋 踏切が無くなると、分かれていた商店街が一つになれる可能性があります。お互いが共榮していけるような地域のあり方を検討することが、とても大切だと思います。

また、地域が抱える課題は、高齢者の福祉や地域商業の活性化などもあります。町会や商店会などと行政が一体になって取り組む、そういう連携を育てたいです。

酒井 これからの沿線まちづくりは、連立事業が必須だと思っています。商店街が一体化するという話がありましたが、それも大きな効果だと思います。互いに連携して、南と北で回遊性を持たせることもできると思います。西武線沿線の商店街は活気があるので、これを中野区の財産として残したい！絶対支援していくんだ！と思っています。

大野 野方のような商店街は、西武線沿線には少ないと思うので、守っていかなければならないと思います。

また、都立家政と鷺ノ宮は子供たちと高齢者が多いので、今のまま静かに暮らせて、子供たちが安全に遊ぶ、高齢者が安心して散歩できるまちになるといいですね。

妙正寺川の護岸が整備される前は、生き物がたくさんいました。鷺ノ宮駅は妙正寺川に近いので、子供も高齢者も楽しめるような親水空間があれば、まちの特徴になると思います。水は、生き物の源じゃないですか。杉並区や練馬区には古い池がありますが、中野区には無いので、ぜひ整備してほしいと思います。

あと、鷺宮から中野駅へは、公共交通を乗り継ぐ必要があります。野方駅は、駅とバス停が離れていますし、バスも渋滞で遅れる可能性があります。ぜひ、利便性の高い公共交通を開拓してほしいと思います。



期成同盟会長
大野 道高 さん

豊川 駅には個性があります。それをいかしたまちづくりを進めたいので、地域の方々のご意見を取り入れて進めていきたいと思っています。

昨今のまちづくりは、ウォーカブルという歩いて暮らせるまちが理想とされているのですが、必須要件として、乗り換え地点の利便性が高いことも重要です。それを各駅のまちづくりで考える必要があると思います。西武新宿線沿線のまちを各駅の個性を活かした“ウォーカブルで楽しいまち”にしたい、そういう思いで進めています。

③今後の期成同盟とまちづくりの展望

酒井 交通の利便性も極めて重要だと思っています。“まちに出かけやすくなる、出かけやすいまち”にしたいですし、住宅地が多い中野区だからこそ、しっかり整えれば、皆さんに“住みやすいまち”として選ばれると思うんです。子育て家庭も、高齢者の皆さんも、障害のある方も、誰もがつかいやすいまちにすることが大事だと思います。

今日のお話を伺っただけでも、色々な課題があると感じました。まずは、西武新宿線の連続立体交差化を早期に実現させたいと思いますし、沿線のまちづくりも皆さんと一緒に取り組んでいくぞ！という想いを一層強めることができました。本日はありがとうございました。



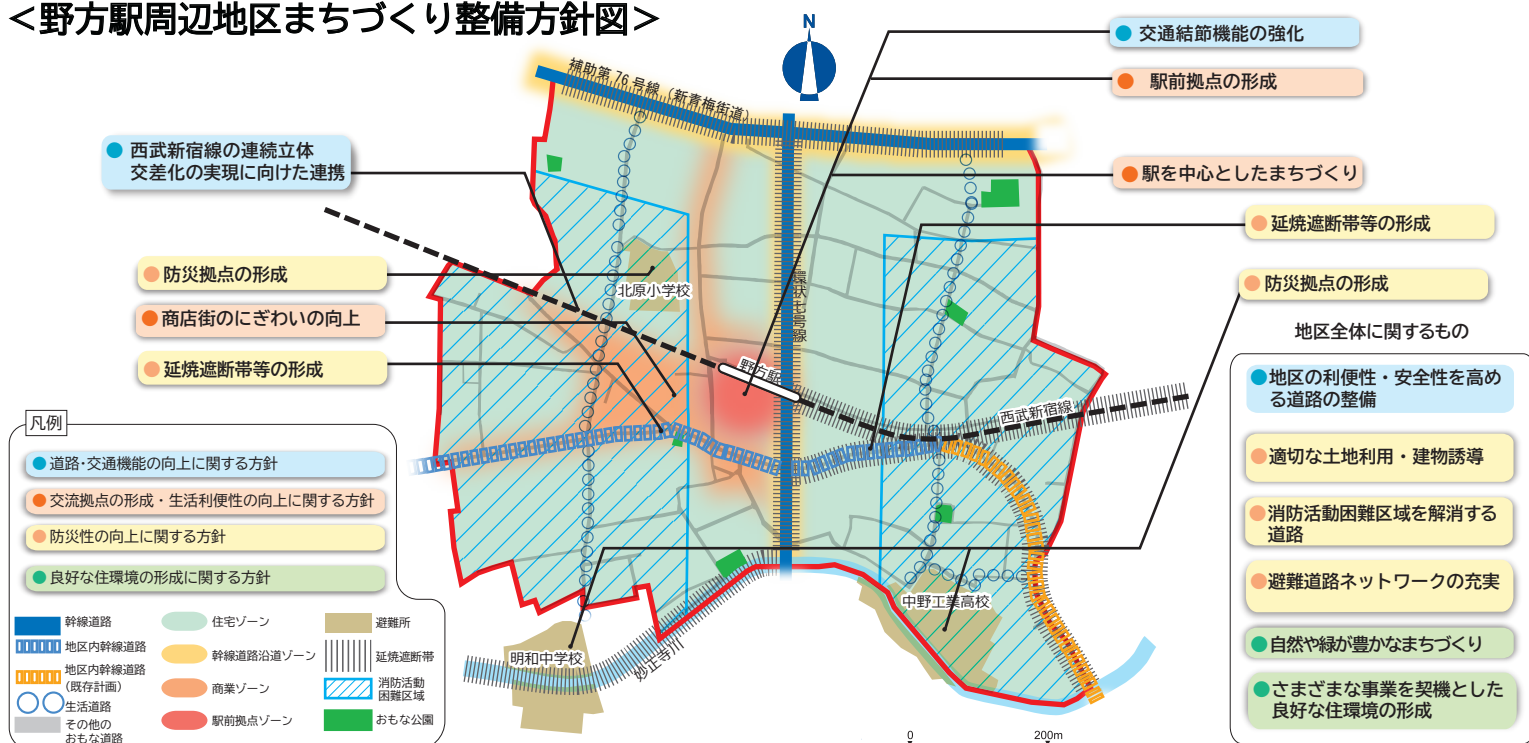
期成同盟副会長
高橋 宏治 さん

西武新宿線沿線まちづくり整備方針【野方駅周辺地区編】 を策定しました！ その一部をご紹介します

<野方駅周辺地区のまちの将来像>

庶民的で情緒のある商店街を求めて、多くの人が集まるふれあいのまち

<野方駅周辺地区まちづくり整備方針図>



西武新宿線連続立体交差事業及び沿線まちづくりQ & A

Q 中井駅～野方駅間の連続立体交差事業について、事業期間が延伸されたと聞きましたが、具体的にいつまでが事業期間なのですか？

A 令和9(2027)年3月31日までです。

Q 中井駅～野方駅間で線路が地下化されたら、上部の空間はどのようなになるのですか。

A 線路敷の土地は、地下化された後も主に鉄道事業者の土地のため、鉄道上部空間の利用方法については、東京都や鉄道事業者と調整を図りながら検討を進めていきます。

Q 新井薬師前駅周辺地区及び沼袋駅周辺地区のまちづくりは、どこまで進んでいますか。

A 駅前の広場や道路の整備については、用地取得を進めています。新井薬師前駅周辺地区では、再開発協議会が設立され、市街地再開発事業の実現に向けた取り組みを行っています。また、沼袋駅周辺地区では、権利者と勉強会を開催し、駅前の拠点整備に向けた検討を行っています。

<お問い合わせ>

中野区 まちづくり推進部 まちづくり計画課

TEL : 03-3228-5463 FAX : 03-3228-5417

E-Mail : matidukurikeikaku@city.tokyo-nakano.lg.jp

※連続立体交差事業や沿線のまちづくりについては、中野区ホームページで「西武新宿線沿線まちづくり」と検索するか、右側の二次元コードを読み取るとご覧になれます。



情報活用後、資源として古紙の集団回収へ